



『三瀬トンネル』が開通
福岡市西部と佐賀市とを最短
距離で結ぶ国道263号の三瀬ト
ンネル（九州で最長2407m）が
7月24日に開通した。

13

1986. 11



副会長に安都間氏

九電燃料部長

61年度
県人会総会



あいさつする安都間氏

昭和六十一年度県人会定期総会で、空席となっていた副会長に九州電力の取締役安都間（あづま）明氏（明氏）が選ばれた。安都間氏は神埼町の出身で、三養基中学、佐賀高校を経て、昭和二十七年、九大卒業と同時に九電入社。現在は取締役で燃料部長。海外経験も豊富で九電



大井手氏へ感謝状

■に転居されました。お二人ともますます元気で過ごしていただきたいと願っています。

トンネルを抜けるとぺんた共和国

ぺんた共和国

福岡市と佐賀市を三瀬峠で結ぶ国道263号の三瀬トンネルが開通して、トンネルの向こうに広がる背景山系五町村の「ぺんた共和国」が福岡市民の間で人気を呼んでいる。「トンネルを抜けると、ぺんた共和国だった」なんて、聞いたことがないという人もおられるが、この共和国は神埼郡三瀬村、脊振村、佐賀郡富土町、東松浦郡厳木町、七山村でことし十二月に建国したばかり。「ぺんた」はギリシャ語で「五つ」を意味する「PENTA」。純粋(Pure)、楽しむ(Enjoy)、自然(Nature)、挑戦(Try)、冒険(Adventure)のアルファベットで構成されて、これを共和国の憲章にしている。

女性の大統領と大臣合わせて五人があり、北山ダム湖水祭の八月八日を「ぺんた共和国建国記念日」として、目下PR中。

おいしい料理と温泉と森林浴と

構想もある。福岡市からは家族そろっての日帰りレジャー、職場やグループでの一泊旅行に最適な観光レジャーゾーンとなりそう。

イメージキャラクターの「ぺんたくん」も登場し、年間を通して各種のイベントも準備中。これからのぺんた共和国が楽しみです。

永倉氏に勲1等瑞宝章

道ひと筋晴れやか



喜びの永倉会長

地域経済の発展に尽力

県人会名誉会長の永倉三郎九電電力会長が、秋の叙勲で勲一等瑞宝章に輝かれました。多年にわたり電気事業に従事し、公益事業の発展と地域の繁栄に貢献されたこと、九州地域の開発と産業経済の発展向上に尽力されたことなどが高く評価されての叙勲となりました。早速、喜びの声をうかがいました。

「電気を使っていたただお客さま、その電気をつくり供給する九州電力の全社員、合わせて一本でいただいた叙勲だと思っております。誠に恐縮しております」

淡々として受章の喜びを語る

「私にできることといえば、国と地域に対する奉仕の気持ちに失わず微力を尽くすこと。長い戦争経験の中で、自分のことだけを考えないこと、ワソをつかず裏切らないことという信念を得ました。この信念を貫き通して、電力不足時代の窮地を乗り切ってきたことは、誇りに思っています」

優れたリーダーは、時として大胆でなければならぬ。信念を貫き、仕事に生きてきた永倉会長にも数々のエピソードがある。

九電が昭和三十三年に宮崎県に諸塚揚水発電所を建設した時のこと。建設計画もすつかり軌道に乗り、いよいよ着工の段取りとなった時、地元の村長が立地受諾と引き替えにさまざまな要望を出してきた。シイタケ乾

大隈侯銅像建設についてお願い

郷土佐賀が生んだ偉人、大隈重信侯の生誕一五〇周年を記念する銅像建設計画が進められており、法人、個人からの寄付を募っています。大隈侯は新生日本の明治政府にあつて重鎮をなし、明治、大正にかけ二度にわたって総理大臣を務め、国運の隆盛に大きく貢献しました。一方では早稲田大学という国家的な遺産を残しています。

六十三年除幕を目標に銅像建設期成会(会長、香月義人・佐賀銀行会長)が設立され、募金目標額三千万円で活動が

0963・23・2891)。

き起こった。荒業師としてのリーダーの一面を物語るエピソードだ。

今年出版した戦争体験記「無我の人生」に続いて、現在は佐賀での思い出や九電における半世紀の歩みをまとめた自伝を執筆中とのことで出版が待たれる。九電のほかに取締役を引き受ける企業は十六社、会長や理事長などを務める団体は九連連など四十三を数え、超多忙の毎日である。

大坪氏くら替え、三池氏参院へ



大塚清次郎氏 三池 信氏 緒方 克陽氏 大坪健一郎氏 保利 耕輔氏 愛野興一郎氏 山下 徳夫氏

大坪氏トップ当選

自民党圧勝に終わった七月六日の史上二度目の衆参同日選挙。衆院選佐賀全県区は、波乱含みではあったが、現職の山下徳夫氏、愛野興一郎、保利耕輔氏と参院からくら替えした大坪健一郎氏で自民党が四議席を確保した。社会党は八木昇氏からバトンを受けた県総評議長、党県本部副委員長の緒方克陽氏が初当選した。

今回の波乱は最長老の三池信氏が衆院から姿を消したことが、三池氏の牙城であった県東部地区から大蔵省中国財務局理財部長の職にあった三十八歳の若手坂井隆憲氏が出馬を表明したことから波乱がスタートした。次いで予想された通りに参院の大坪氏が衆院への転身を表明。この段階で「衆院あと一期」に固執していた三池氏も「後進に道を譲る」と引退を表明した。

もう一つの衆院でのトピックは、大坪氏のダントツのトップ当選であった。保利、山下、愛野氏も善戦したが、佐賀市や地元杵島地区をはじめ全県下でまんべんなく集票して肝を抜いた。

参院佐賀選挙区は、引退した福岡日出鷹氏に代わって自民党県連が推した県園芸連会長、前

県議の大塚清次郎氏が順当に当選、社会、共産候補を寄せつけなかった。

岩永氏、出馬断念

波乱といえば大坪氏のくら替えに伴う八月十日投票の参院選補欠選挙も舞台が二転、三転した。衆院を断念した三池氏が、八十五歳の高齢をものともせず、参院選に立候補表明。一方、保守からは県議で自民党政調会長の若き実力者岩永浩美氏（四四）が出馬を表明、党公認を争う形となった。

しかし、保守を二分してしまふと、トンビにアブラゲ、革新候補に議席を奪われる危険性があつた。岩永氏は国政への初挑戦で中曽根派。着々と地歩を固めていたが、衆参同日選挙後の各派閥の議員数のこともあって中曽根—金丸トップ会談で三池氏公認が事実上、決まった。これに伴い、岩永氏は出馬を断念した。

選挙の結果、三池氏が社会党候補をかわしたが、投票率が三九・二三％と最悪で苦戦の当選となった。

こうして衆院佐賀全県区、参院佐賀選挙区の顔ぶれがそろい、心機一転、郷土佐賀県と中央を結んで活躍中である。



理事 榊原 祥光

秋の深まりを感じながら、過ぎ去った夏を静かに思う。

今年夏、高校生の柔道の祭典、金鷺旗大会を観戦する機会を得た。全国からなんと二百九十二校の参加。いがり頭の高校生が青春を思いきりぶつけ合う姿は、何ともすがすがしく、心躍るものであつた。

私も三十年程前、同じく柔道に青春を燃やした日があつた。

大会会場では、熱戦に汗する高校生の姿に当時の自分がオーバードラップし、懐かしさも手伝って観戦にも熱が入った。

残念ながら今年も金鷺旗は関門を越え、前年度に引き続いて名門、東京・世田谷高校の頭上に輝いたわけであるが、優勝メンバーの中に幾人かの九州出身者の顔があつた。

昨年の場合も優勝チームには佐賀県出身の選手二人が含まれ、優勝の立役者であつたという事実を耳にすると、複雑な思いにとらわれるとともに、「いやいや、佐賀健児の意気高し、柔剣道界にあつては九州男児健在なり」と誇らしく思うのである。

それにしても高校スポーツの新鮮味はいいものだ。野球、陸上、柔道、剣道、その他いづれの競技種目にしても、教育の一環として礼節を尊び、心・技・体の極意を追求するという、本来のアマチュアリズムがさわやかに現われているところに、見る者の共感を呼び覚ます。

ところで今や世界のスポーツの流れは、アマチュアとプロの垣根が取り払われ、プロ化の波がひたひたと押し寄せている。いづれ、そう遠くない日に、プロでなければ各競技の頂点を極められない時が訪れると思われる。

すなわちアマチュアスポーツが、「道」の追求の後の結果として勝敗があるのに対し、プロの競技というものは何があっても勝利することがすべてに優先するわけである。

時代の流れとはいえ、損得を考えないで戦うアマチュアスポーツの求道心をいつまでも失いたくないと願うものは、私だけではない。勝者の涙に、また敗者の涙に、金をダブらせてみるのはあまりに忍びない。今年夏の長い長い甲子園の熱闘、福岡に見た熱気あふれる金鷺旗大会の力と技を見ながら、スポーツとは何か、を考えた。（エイシン商事社長）

私の履歴書

「自叙伝は自慢話になるから読まない方がいい、書かない方がいい」とスイスのヒルティは、その「幸福論」の中で言っている。が、「むつごろ」編集子に是非にとせがまれ、つい埋草の足しにでもと恥をさらすことにした。

大正十一年に神埼郡蓮池村（現佐賀市蓮池町）に生まれた。蓮池は小さな村ではあったが、小城、鹿島と並んで佐賀本藩の支藩であつたせいか、芙蓉小学校は文武に秀で、その名を近隣に馳せていた。

旧制佐中はもちろん旧制佐高へも町からだれか一人は欠かさず通学していた。私は従兄に刺激されて佐中へ。一浪して佐高へ進んだ。後のことになるが、この一浪によって入隊延期のまま兵隊に行かず終戦を迎えた。

我家が代々、蓮池藩の御用石工だったこともあって、九大で土木を専攻した。二十一年、建設省のあつせん熊本県庁に勤めることになり、十六年間に熊本で過ごした。三十七年に青森県道路課長になり、北国の土木事業を経験した。ここでは八甲

田の山スキーを楽しむこともできた。

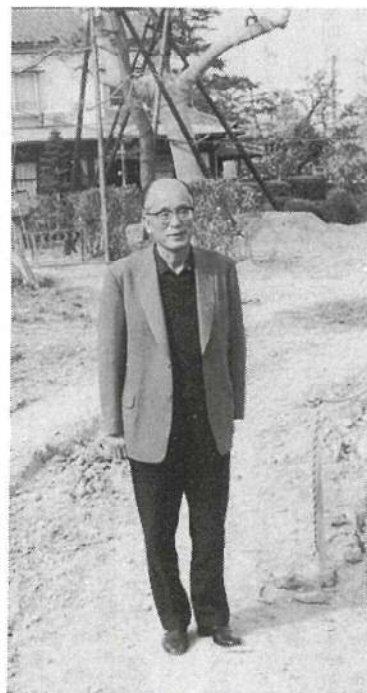
次いで三十九年、埼玉県道路課長に転じ、首都圏の交通問題を学んだ。当時の埼玉はゴルフ

場が全国一多い県で、今日のブームよりはるかに早いうちにゴルフを覚えることになったものだ。

福岡とのお付き合いは四十二年四月、県道路課長に赴任したときから。福岡北九州高速、鳥栖筑紫野有料道路などを手掛けた。このあと四十六年から三年間、長崎県土木部長を務め長

道路づくりの半生をささげる

福岡市助役から箱崎埠頭社長



県人会副会長

筒井 寅吉氏

崎空港、平戸大橋、九州横断道の建設などに参画したが、次いで福岡市の技術担当助役として再び福岡に落ち着いた。

以来、ずっと福岡に腰を落ち着けることになるのだが、福岡高速道路、市営地下鉄、福岡市美術館などの建設事業に従事した。

盆、正月に蓮池に帰省すれば、

佐賀江の改修、佐賀市街地の浸水など郷里の話が聞かれた。土木屋としてこれらの話は非常に関心のあることではあったが、ついに佐賀県庁に勤務する機会には恵まれなかった。

ただし三池信先生が佐賀県道部の大先輩ということもあって、佐世保から伊万里に抜ける国見トンネル、鳥栖筑紫野有料道路、三瀬トンネルの建設など佐賀の関係市町村長さんからの要望もながいながら多少なりとも郷里のためお手伝いできたことは、土木技術者冥利に尽きると感謝している。

五十六年四月から博多港開発（株）で博多湾の埋め立てに当たってきたが、現在は箱崎食品コンビナート内の箱崎埠頭（株）、箱崎ユナイテッド（株）の社長を引き受けている。また福岡市佐賀県人会では金子宣嗣会長のもとで副会長、九州産業大学の青木誠理事長のもとで理事を仰せつがっているのも感謝である。私事については、健康のため埼玉で寛えたゴルフを続けていること、信仰厚い浄土真宗の家に育ちながら、学生時代から内村鑑三門下の塚本虎二先生（朝倉郡）を師として、聖書の勉強を続けていることぐらいがせめて紹介できることであろう。

好評、古湯映画祭

第三回古湯映画祭が、九月十二日から十五日まで佐賀郡富士町の古湯温泉街にある北部山村開発センターを会場に開かれた。県内はもちろん福岡など九州各県、東京からも熱心な映画ファンが詰めかけ、人気の若手映画監督からも姿を見せて、日ごろ静かな温泉街も熱気にあふれた。



古湯映画祭は、全国的に有名な湯布院映画祭をヒントに始められた。地元挙げての取り組みで、県外の「古湯ファン」も増えてきた。

またことしは婦人会が、手作

りで「七人の侍弁当」「くろさわまんじゅう」を売り出し、好評だった。

県観光に三本柱

県は有明海の干潟公園と佐賀城(佐賀市)、名護屋城(鎮西町)を観光の新たな三大拠点とする観光振興実施計画を策定した。五年、十年、十五年の長期構想で総事業費は約八十億円(城の復元費は除く)。地元自治体や既存の整備計画などとの調整を図りながら県を代表する観光地点として育成、観光客の大幅増を狙う。

有明海の自然干潟は規模的にも全国有数。しかも、ムツゴロウやワラスボなど珍しい生物が生息、有力な観光資源となる可能性を秘めている。今回の計画はこれら未整備の資源を大胆に活用、新たな魅力を創造することに重点を置いている。

干潟公園は自然の生態系を破壊せずに建設する。未開発の二杉程度を確保し、干潟学習ゾーン、レクリエーションゾーンなど七つのゾーンを設ける。

佐賀城は、城復元の研究も行い、機運が高まれば復元にも取り組む。各護国神社は、復元が最も有効だが、公有化も終わって



いないので長期的に検討する。復元が可能になれば、建物内部に博物館の機能を持たせ、大名料理や茶の湯が楽しめるコーナーも設ける。また朝鮮半島との文化交流の拠点となる施設・国際文化交流センターを建設する。

熱気球パイロット

六十四年に熱気球世界選手権の開催が決まっている佐賀市は、急務のパイロット養成のためのバルーンスクールを十月から開設する。

念願の世界大会開催が実現することになった佐賀市だが、熱気球を飛ばす肝心のパイロットは、同市のクラブ「かちがらす」に三人いるだけ。半面、熱気球は、今秋までに同市内とその周辺に七機が増える予定で、パイロットの養成が急がれている。

バルーンスクールは十月から来年三月までの六カ月間、土、日曜日に開く計画。佐賀市商工観光課では「二十人程度は育てたい」というのが……。

県議事堂を改築

県庁舎改築事業が進み出したが、まず県議事堂の建設計画が明らかになった。鉄筋コンクリートの地下一階、地上六階建て。新行政棟や周辺環境との調和を図り、「端正で威厳のある建物」としている。細部を検討し九月末には実施設計を終え、本年度中に着工の予定。



実施設計概要によると、現在の議事堂の二・五倍の広さになる。議場は五、六階の吹き抜け。地下は議員専用駐車場。本年度中に着工、六十二年末完成の予定。

県人口増え、只今、88万人

総務庁がまとめた六十年国勢調査の人口確定数によると、佐賀県の人口は二十四万二千六百九十九世帯、八十八万八千三百八十八人(男四十一万七千三百八十八人、女四十七万一千五百五十二人)で、五十五年調査に比べ、九千五百五十二世帯(四・%)、一万四千四百三十九人(一・七%)の増加となった。市町村別では佐賀市や大和町など二十七市町村で人口増加、鹿島市や脊振村など二十二市町村で減少した。

国勢調査による佐賀県人口は、

佐賀昇が十両昇進

藤津郡塩田町五町田、社会福祉法人・済昭園出身の力士、佐賀昇(二四)は押尾川部屋に、大相撲秋場所前の番付編成会議



の結果、念願の十両入りを果たした。佐賀昇は早速、吉報を持って済昭園に里帰り。親代わりの小佐々良徹園長に喜びの報告、職員や園児たちの祝福を受けた。

佐賀県内からの力士誕生は、昭和五十二年の天ノ山(多久市出身)以来のこと。本人はもちろん関係者は大喜びだ。

佐賀昇は杵島郡白石町生まれ。小学生の時に両親を相次いで病気で亡くし、同園の児童養護施設に入った。子供のころから体が大きく、足腰の丈夫なところを塩田町で飲食店を経営する押

県観光の日(八月一日)にちなんで「第二回県観光の日の集い」が県立美術館ホールで開かれ、'86ミス佐賀には小郡小町、家事手伝い高津芳恵さん(二一)が、観光キャッチフレーズには岡山県の会社員が作った「人情産地さが」が選ばれた。

人情産地さがPR



左から山下さん、高津さん、大塚さんの順

ミス佐賀コンテストは最終審査に残った二十七人がステージに立った。ミス観光佐賀には佐賀郡川副町、ホンダクリオ勤務の大塚千波さん(二三)、ミス若楠に佐賀市水ヶ江二丁目、大和証券佐賀支店勤務山下里子さん(二三)が選ばれた。

尾川部屋九州後援会理事の田中俊夫さんが見初め、五十二年に角界入りした。

電線は地下がいい

県は県都佐賀市の景観美化を図るため、中央大通りと唐人町通りの電線や電話線を地中に埋設するCAB(キャブシステム)事業に乗り出す。総事業費七億円で五年計画。国、佐賀市、NTTも事業費の一部を負担する。年内に着工する。

CAB事業は建設省も十年間で一千の実施構想を立てて着手している。県は佐賀駅前交差点から佐賀郵便局までの延長千二百四十メートルにコンクリート製U字形ケーブルボックスを道路両側に埋め込み、電線を地下に移す。この区間には四十八本の電柱があるが、工事が完了するとすっきりしたきれいな街路に変身しそう。

佐賀に私立英才校

松尾建設が中高一貫教育の英才校「弘学館中学・高校」を佐賀市金立町に来年春開校させる。松尾建設出資の学校法人松尾学園(松尾幹夫理事長)は「教育県・佐賀」の復興を願って弘

有明海に遊覧船

有明海の干潟走行船の考案者、杵島郡白石町中郷、鉄工所経営長谷川勝利さん(四三)が、今度は和船を改造した海上用の有明海遊覧船を製作した。十二人乗りの貸切遊覧にしたいと考えているが、船体と同じく合成樹脂製キャビンが取り付けられ、酒宴用テーブル、カラオケはじめ、冷暖房完備、トイレ付きという豪華版。海上でいっぱいやりながらの小宴会にぴったりと



話題になっている。船名は町名にちなんで「ホワイストン号」。中古船を改造し、文字通り白を基調にスマートな外観。四・八メートルの合間にコックピットを入れ、三か月で完成させた。中古船やエンジンには自前でも製作費三百万円。

長谷川さんが三年前に考案した干潟走行船「むつごろ号」は、強化プラスチック製ノリ船の両翼に羽根車を付けて走るもので、昨年の県発明考案コンクールで佐賀新聞社賞を受賞。ことし二月には運輸省が買い上げ、第四港湾建設局苅田港工事事務所の埋め立て工事で、ヘドロの海を相手に工事測量で大活躍中。



このごろ 私は

100人の還暦同窓会

秀嶋 正徳さん
(西有田町)

私のふるまとは、名工柿右衛門の曲川村(現在は西有田町)です。曲川尋常高小を昭和十五年に卒業、福岡の電気学校(夜間)に四年間通学して、昭和十九年九州配電に入社、本店工務部に勤務しました。

その後、電気工事会社に転じ、昭和三十八年に柳秀電社を創立し、自動制御、計装設備工事、一般電気設備工事の施工をやっております。



昨年十二月に同窓会の通知が来ました。それには「この数多い人の世に、曲川小学校昭和十三年にもなる。」

二年卒業生、男子五十一人、女子四十九人、ちょうど一〇〇人卒業以来幾星霜、時去りて生誕六十年還暦の祝賀をメインテーマに組んで、左記により同窓会を計画いたしました。それぞれの人生を生きても月に星に思ふ「ふるさと」の山川です。ぜひとも一人も欠けることなく出席して下さるようお願いしてご案内を申し上げます。

「むつごろ」十一号で新入会員紹介欄に載せていただきましたが、「電気店経営」というのは誤りで、「オオサワ文機」という



文具事務機の販売業をやっております。

大阪で十数年のサラリーマン生活を経て、転勤で福岡に戻って一年後に脱サラ、現在の商売を始めました。なにせ素人なので手さぐりでしんどいスタートでしたが、お陰で八年目を迎えました。

ひと昔前の文具屋なら、これり、いろいろと論議され検討されています。

先輩の柳電友社、森社長より勧められ県人会に入会させていただきました。これから県人会の先輩の皆様の御指導をよろしく御願いたします。(中略)

ほと商品も多様ではなかったのですが、今は種類が多く、OA化が進んで商品知識がますます求められるようになってきました。大変な商売に足を踏み入れたものだと痛感しています。フアクシミリ、ワープロも普及してきて客層も広がり、競争も厳しい業界です。

脱サラ8年

大沢 一敏さん
(相知町)

コピーサービスに続いてワープロ、フアクシミリサービスを始めました。夜はワープロを楽しまながら打ったり、また飲むお付き合いも大事にしているもので、多忙です。頑張っていますので、よろしく。

オオサワ文機経営、四十二歳)

米穀商人生

綾部十三夫さん
(中原町)

田舎から博多に出たのが昭和八年の夏。父、兄、そして私と家業の米穀販売業を継承して五十五年になる。居住する東比恵一帯も当時は田んぼばかりの田舎町だった。

父と兄が早く亡くなり、昭和十五年から十八歳で家業を継ぎ、兄嫁と二人で懸命に働いた。食糧統制の厳しい時代。そのころは供出米のモミすりの仕事が多忙を極めた。十九年三月に応募

県人会十日会には、中山政一理事のお誘いで四十年ごろに入会したが、私が最も年少で数々の人生勉強の場となった。この十日会が永く続いているのも、先輩方が人徳のある人ばかりで、親睦の会の姿勢を崩さないからだろう。高齢者が多くなり、いささか先行不安はないではないが、会の続く限りお手伝いしていきたいと思っている。今日の生あるを感謝して楽しい余生を過ごしたいものだ。

米穀店経営、六十二歳)

県人会を楽しむに

森 克己さん
(佐賀市)

自己紹介から始めなければならぬが、福岡に移り住んで三十三年にもなる。

佐賀市の神野尋常小、佐賀中を卒業し、満洲の旅順工科大学予科に入学した。三年修了後に本科電気科に進み、卒業すると



人で電気工事店を開業しようとの相談があり、これに加わり、新会社「電友社」の社長を引き受けることになった。

昭和二十八年に福岡に住居を移してからは、盆、正月にお寺参りに帰るだけとなった。今日では県人会や佐賀中学同窓会に出席して、佐賀弁で郷土の話に花を咲かせるのが大きな楽しみの一つになっている。

人生八十年時代に五十年代、六十代の存在はどんなものか。厚生省はその呼称を公募し、「実年」と名付けた。私なんぞは、まさに実年の真つ只中という訳である。「充実した人生」を想起させる呼称という解説があるようだ。

「実年」を実感するのころ「えにし」という言葉を意味深く考えるようになった。

「実年」と「えにし」

田中 竹四さん
(伊万里市)

昭和二年生まれだが、早生まれで昭和元年に近い。激動の昭和の歴史を地帯で生きてきて、還暦に手の届くところとなった。中学卒業と同時に航空隊志願、そして考えもしなかった敗戦を十八歳で迎え、再び帰ることはあるまいとあきらめた山代町の郷里に帰ることとなった。

佐賀銀行に三十余年勤めた。

私の人生の半分は友達によつてつくられている。そう思うことがある。信頼できるパートナーを持つということは、最大の幸福です。県人会がますます信頼に満ちた会となることを願ってやまない。

最近では、何かと言えば「発想の転換」「革新の時代」と叫ばれ、従来の思考、発想では生き残れない時代と言われている。

それは「心」ではないでしょう。厳しい競争の時代、物が豊かな時代こそ、心の通い合いを大切にしたいと思えます。それが真の葉隠精神だと思うのです。



すね。若輩者ですが、一生懸命頑張りますので、今後ともよろしくご指導下さい。(中略)

清水建築設計事務所代表取締役、三十六歳)

若い人も県人会に

清水 邦博さん
(鹿島市)

近畿大学工学部を卒業してから建築設計事務所を五十六年に設立し、乱戦模様の建築業界で悪戦苦闘しながらも、お陰で一歩一歩前進しています。また、五十九年五月からは、スマートな建て物で知られるツーバイフォー工法の設計をしているトニフォー・ティ・エス(株)福岡営業所長も兼務しています。

県人会の総会には何回となく出席していますが、もつと若い人がどんどん参加して欲しいです。

このごろ 私は



私の人生の半分は友達によつてつくられている。そう思うことがある。信頼できるパートナーを持つということは、最大の幸福です。県人会がますます信頼に満ちた会となることを願ってやまない。

この精神を念頭に置き、四十五年より建築材料、住宅関連機器を取り扱って商売をさせていただいています。今後とも人とのつながりを何より大切にしていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願い致します。

清水建築設計事務所代表取締役、三十六歳)

清水建築設計事務所代表取締役、三十六歳)

西松浦郡有田町泉山の生まれ育ち。海軍兵学校から武雄中へ。三年の時、新制武雄商に変わった。昭和二十八年、九大法卒、福岡銀行入行。大阪支店長、取締役企画部長を経て、昨年から常務取締役、企画本部長。

金融自由化時代に入って激しい金融競争にしのぎを削る業界にあって、全国地銀の中でも名だたる優良銀行。総預金量が三兆円を超す九州金融界のリー

活躍する 佐賀県人

西日本一の歓楽街、博多中洲。その真ん中、中洲三丁目の第三ラインビルにあるのがクラブ「紅こま」。昭和三十五年五月の開店だから、はや二十六歳の歳月が流れた。

「私、唐津から福岡に出て佐藤タイピスト学校を卒業し、邦文タイピストとして働いていたんです。そんな私にあるキャバレーのマネージャーが、自分の店で働きませんか、とそれは熱

福岡銀行常務
江上 正俊さん
(有田町出身)



ディング・バンク福岡銀行にあって、新木頭取経営体制の有力なブレーンである——とまあ、まずは人物の紹介から。

「金融機関にとっては厳しい

時代を迎えていますよ。ここはひとつ、知恵を絞って、健康に気をつけて乗り切っていかなければ」という常務さんの健康法は、ジョギング。もう十五年も

続けている。

五十年に大野城市南ヶ丘に住居を構えるまでは、大濠公園近くに住んでいたの。一周二キロを走り始めた。「四十歳のころ胃

毎朝2キロジョギング
福銀の頭脳で奮戦

を悪くしてね。節制したら太りだしたので、こりゃーいかと走り始めた。海外出張先でもよく走るし、これが楽しい。旅先のは思い出づくりみないなもんだが、ナイアガラの流れを見ながら走ったのは最高だったね」

キャリア二十年のゴルフは、今も週一回程度だが、ジョギングのお陰でまったく疲れを感じないという。「パートナーを喜ばせるハンディ」というものの、オフイシャル14。長年のジョギングがつくった体力が、仕事のときも絶えないさわやかな笑顔と余裕を生んでいるようだ。

クラブ「紅こま」経営
松尾 智恵さん
(唐津市出身)



絵筆にぎって12年
店と油彩に大忙し

お店を持ちました」

広いお店に、大勢のホステスさんを抱え、紳士の夜の社交場として指揮を取るママの松尾さんにとって、ホッと肩の力が抜

けるのは絵筆をにぎるひととき。油彩を始めたのが十二年前。それまでは専ら鑑賞したり、買い求めるだけの絵だったが、ある病院長に「自分で描いてみた

らどうか」と勧められ、太平洋美術の溝口先生を紹介された。

「私一人で教えていただくのはもったいないので、店の女性にも声をかけて、初めは十六名で始めたんですけど、そのうち三名だけになりました。以来、四人の先生に師事しています」

油絵も今では趣味の域を出て、クラブ経営と作品制作で多忙な毎日。「中洲に働く女性にも絵画や書道などで真っ直ぐな心を持つ情操教育が必要です。日本でも中洲の女性は立派だね、と言っていただけに」

松尾さんの作品を見たい方は「紅こま」へどうぞ。

ふるさとの首長



唐津市 市長 豊さん
野副

「スポーツ観光」で活力
唐津の良さを見直して

唐津の街は、昭和五十八年の国鉄駅高架化事業によって変わった。高架上を電車が走り、福岡市の地下鉄へ相互乗り入れをする。九州のローカル線では初の電化だった。

「電化によって経済動脈のパイプがさらに大きくなった。市街地の道路整備もかなり改善された。唐津駅の南北の広地を急ぎ整備しなければならぬと思う。市の表玄関だから」

市の要職を務め、助役から市長へ。二期目。鉄道近代化後の街づくりとともに「スポーツ観光」に力を注いでいる。

「虹の松原を中心にした恵まれた自然環境があり、その中に配している各種の体育施設を生

かしてスポーツ大会や合宿などを誘致したい。スポーツと観光が相互に効果を高め合うことになる」

企業誘致にも熱心。若者があふれる活力ある街づくりの一つ。県の応援を受け、ここ一年間に五社の誘致に成功。奮闘している。

県人会へひとこと 虹の松原海水浴場、唐津くんち：魅力いっぱい見直して下さい。来年七月には県内随一のホテルも完成します。通過型から宿泊型観光への転換を目指しています。唐津をどうぞかわいがって下さい。

新会員紹介

氏名 住所 電話番号
職業 出身市町村

秀島 正徳

古賀 祐人

▽大町町

清村 克行

田中九州男

▽祐徳自動車▽鹿島市

一 輝巳

佐々木善年

▽福岡同青果▽浜玉町

権藤 一夫

事務所▽鳥栖市

失加部寛幸

▽西嶋会計事務所▽唐津市

馬渡 典尚

田中 興蔵

伊万里市

川添 恵介

K(シンク)▽唐津市

北島 彌生

伊東 信

▽中原町

末藤 秀雄

東京支社▽武雄市

高野 英之

▽鹿島郵便局▽鹿島市

宮崎 晴行

▽唐津市

▽書道塾▽伊万里市

吉野 桑久

新町支店▽唐津市

濱田 邦次

▽唐津市

石田 武俊

▽唐津市

松尾 秀喜

▽佐賀相互銀行福岡支店

山本 恵弘

▽清新産業▽小城郡小城町

本岡 必

▽九州電力北九州支店

▽佐賀市

藤 好行

小柳喜代志

▽唐津市

今村 久昭

▽唐津市

▽唐津市

昭和グループをご利用下さい

昭和自動車株式会社

本社／唐津市千代田町2565-5 TEL (09557)4-1111
福岡営業所／福岡市東区東浜1-8-8 TEL (092)641-6381

福岡トヨタ自動車株式会社

本社 福岡市中央区渡辺通4丁目9番25号
TEL 代表 761-3331

信用で売る店

トヨタカーラ福岡株式会社

本社 福岡市中央区長浜2丁目1番5号
☎092-712-7111(大代表)

昭和商事石油株式会社

本社／福岡市中央区大手門2丁目3番7号
TEL 092-714-3111

トヨタオート福岡株式会社

本社 福岡市博多区竹下2-2-31
☎代表(092)411-5511

福岡昭和タクシー株式会社

本社／福岡市中央区渡辺通2丁目4番1号
TEL (092)761-2531
今宿／(092)806-0179 前原／(0922)2-2234

昭和セントラル株式会社

福岡市中央区天神4丁目1-6
電話 (092)761-6081

トヨタフォークリフト株式会社

本社／〒812 福岡市博多区東比恵4丁目5番14号
☎(092)441-6031(代表)

(株)トヨタレンタリース福岡

福岡市博多区東光寺町1丁目1-1
TEL 461-0100

セントラル石油販売株式会社

福岡市中央区大手門2-3-7(☎810) TEL 092-711-1131
佐賀市鍋島町八戸564の1(☎840) TEL 0952-22-2520

会報むつごろ

昭和61年11月15日発行
福岡市佐賀県人会
(発行責任者 溝上 嘉幸)
福岡市中央区天神4丁目1-6
昭和セントラルビル内(〒810)
☎092-761-8253
制作 (有)タナカ製本印刷所
☎09552-3-5214

今号、新会員紹介スペースが広がったのはニュースでした。

晩夏には発行したいと考えていた「むつごろ」でしたが、白熱のプロ野球公式戦と日本シリーズに心奪われているうちに、晩秋となっておりまして。申しわけありません。鮮度がやや落ちたものについては、味覚の秋に免じて独自の味つけをしています。

秋深まり、色づいた街路樹のイチョウやケヤキの葉が、ヒラヒラと寒風に舞います。酒がうまく、魚も野菜も果物も、口にするもの何もおいしい味覚の秋。会員の皆さん、元気で過ごして下さい。

編集デスク